

長良川改修 完了で 被害軽減へ



平成16年10月の台風23号で被害を受けた関・美濃・岐阜市の長良川沿岸地域で、岐阜県が進めていた「長良川床上浸水対策特別緊急事業」が完了し、側島の河川敷で完了式が行われました。関市では、池尻・保戸島地区などで、洪水時の河川の水位が

30～70センチ下がるよう河川断面を拡大したほか、越水を防ぐ護岸工事や築堤をしました。また、今後も地域の安全のために着実な事業推進に取り組めます。完成を記念して出席者が長良川へ稚魚を放流し、住民の安全へ決意を新たにしました。

あんな事、こんな事

関市イメージキャラクター
「関*はもみん」



キウイ上手に採れたよ

洞戸の特産品、キウイフルーツの収穫が11月上旬から始まり、倉知小学校3年生が収穫体験しました。洞戸黒谷のキウイ果樹園には、たわわに実ったキウイがぶら下がり、児童たちは一斉に畑に入ると、あちこちで背伸びをして手をいっぱい伸ばし、一つずつ丁寧に実をちぎっていきました。1時間の収穫で約500キロに。選果場で働く人の様子も見学し、洞戸自慢の果物と農家の仕事について学習しました。

イイハの日には刃物に感謝

使い込まれて役目を終えた刃物製品を供養する「刃物供養祭」が関鍛冶伝承館で行われ、全国から寄せられた約35,000本を供養しました。県刃物産業連合会が「イイハ」の語呂を合わせた11月8日の「刃物の日」に毎年実施しています。回収された刃物は、鋼材として再利用されます。私たちの暮らしに欠かすことができない大切な道具である刃物。供養祭で、感謝の心を思い起こしました。





関商工ぽっぽ発車

桐が丘幼稚園で、関商工高校の生徒が製作した電動機関車「関商工ぽっぽ」の乗車会があり、園児約200人が乗車体験しました。紙で作ったお金で切符を買い、順番に園庭を一周。園児らは「動いた!」「出発進行!」などと歓声を上げ、手を振るなどして楽しみました。この機関車は、夢のある乗り物を作ろうと機械科の生徒4人が1年間かけて完成。今後もイベントなどで活躍してくれそうです。

元気な上之保 地域ひとつに

少子高齢化が進む上之保地域で、合併前に実施していたスポレク祭を地域づくり、まちおこしの一環として発展的に再生させた「スポーツと祭り文化の祭典」が上之保小学校体育館で開催されました。6集落の約450人が運動や踊りなどを通して交流を深めました。上之保小中学校児童生徒らによる「ロックソーラン」や30歳代男性ら60人による組み体操が披露されると会場は歓声に包まれました。



今に伝わる荘厳なお祭り

洞戸の高賀神社で、11月始めに古式ゆかしく執り行われる「秋の大祭」がありました。神楽笛・太鼓の先導に、烏帽子・かみしも姿の地域住民が、大鳥居から本殿まで歩く宮入り行列の神事で始まり、本殿で五穀豊穡を願ってお祈りしました。また、今年は4年に一度の「神幸祭」があり、御祭神が神輿に乗って参道に出ました。また、地元児童による「巫女の舞」が奉納され、多くの来場者が優雅な踊りを見守りました。

連携で質の高いまちづくりを

市は、中日本航空専門学校(迫間)と市内の児童生徒の同校見学や市関連部署などへのインターンシップの受け入れなどを盛り込んだ包括連携協定を締結しました。航空産業のPRやものづくりに関する技術力向上のための情報交換などについて協力します。学校が有する専門性を地域づくりに活用できることで、地域の総合力が高まることが期待されます。



こぼれ話



中国で現地の青年たちと交流し、視察などを通して両国の相互理解を深める「日本青少年訪中代表団」の一員として参加する機会がありました。地元の自動車企業の工場見学をはじめ、旅行業界との座談会、大学生との対話会など活発な交流の場を通して、急変していく社会への対応、経済成長の一端を実感しました。また、工芸美術や音楽、踊りはもちろん、華やかな色彩を放つ服飾など、魅力あふれる多民族の文化は、まさに中国の伝統文化でありました。

貴重な体験を通し、「文化」には優劣はなく、異文化を理解することが、真の国際交流、友好関係の発展につながっていくものと確信しました。

関市は、中国・黄石市と友好都市提携して来年で15周年を迎えます。関市国際交流協会(事務局・広報課)では、毎年外国語講座や料理教室、スポーツ交流など多くの行事を開催しています。これからも市民の皆さんと世界の人たちとの交流活動を応援し、国際感覚あふれるまちづくりを進めます。広くボランティアも募集していますので、興味のある方はぜひご連絡ください。